

「こんにちは！赤ちゃん」 事前資料

月 日（ ）の「こんにちは！赤ちゃん」の授業の中で参考にします。家の人に聞いてみましょう。

あなたが生まれた時のことを話し合ってみましょう。

小さな頃の思い出で、好きだった遊びや心に残っているエピソードはありますか？名前の由来や、家族に聞いた話などがあれば、記入してみましょう。

誕生日 年 月 日	<u>エピソードや遊びなど</u>
曜日	
時 分	
グラム	
<u>名前の由来</u>	



※記入した用紙は、授業時に持ってきましょう。

『親へのみちしるべ』【ステージ4】“親になる準備”のためのプログラム
 —未来の親となるあなたへ「こんにちは！赤ちゃん」

ファシリテーター進行表（進め方です。参考にしてください。）

テーマ	—未来の親となるあなたへ「こんにちは！赤ちゃん」				
対象 会場	中学生（10代の子どもたち） 中学校等				
方法	参加型学習 ※PDCA サイクルを大切に実践する。（P：計画 D：実行 C：チェック A：改善・行動）				
時間	90分（臨機応変に対応する）				
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 体験を通して、中学生になるまで支えてくれた家族や周囲の人に支えられてきたことに気付くとともに思いやりや感謝の気持ちを持つ。 自分が将来親になることをイメージし、親が子を思う愛情に気付く。 				
事前の準備	○事前資料をもとに、誕生日、体重、名前の由来、エピソード等を親に聞いておいてもらう。				
準備物	<机>①『親のみちしるべ』ワークシート ②おなかの赤ちゃん実物イメージ体感シート ③事前資料 ④アンケート用紙 ⑤文房具（各自準備） ※グループに分かれ、ファシリテーター、地域支援者等がグループワークに参加する。 <全体>①妊婦シミュレーショングッズ（約3kgの重さにしたリュックサック） ②赤ちゃん人形 ③グループシート（グループワークで使用する模造紙等の大きな用紙） ④マジック				
段階	形態 場面	展開	予想される生徒の反応	指導上の留意点 準備物等	
導入 10分	一斉	< みんなのルール > <ul style="list-style-type: none"> 自分のペースを大事にしてください。 他の人が話をしている時は、みんなで聞きましょう。 プライベートな話は外へ持ち出さないようにしましょう。 他人を傷つけるような行動や言葉遣いはつつみましょう。 みんなで協力してワークを進め、この時間を楽しみましょう。 			
		①みんなのルールを読み上げる。	①みんなのルールを聞き、確認する。		
		◇講話 「妊娠と出産について」			
		①出産までの母親の身体や心の変化を示すとともに、成長についての話をします。	①命の誕生を医学的に捉えることで出産や成長をイメージする。	準備：おなかの赤ちゃん実物イメージ体感シート、事前資料 ※資料を使い、短時間で分かりやすく説明する。	
展開1 20分	グループ	体験 「妊娠中のおなかを体験してみよう！」			
		ワーク1 「いろんな動作をやってみよう！」			
(10分)		①進行お手伝い役生徒紹介 ②みんなの自己紹介（名前） ③体験の手順を説明する。	②自己紹介をする&聞く。 ③説明を聞き、いろいろな動作を行う。	準備：シミュレーショングッズ（約3kgの重さにしたリュックサック） ※いろいろな動作を一通り体験させる。	
(10分)	<気付く>	ワーク2 「感想を話し合ってみよう。普段とどんなことが違いますか。」			
		①感想を話し合ってもらおう。 ②感じたことを付箋紙に書いてもらい、グループシートのエリアに貼る。 ③進行役が同じ内容の付箋紙をグループに分ける。	※身体の重心が変化していくことで負担や大変さを感じる。	※展開1では、身体的な気付きのみであるが、展開2で心理的な変化を期待する。 ※感じたことをどんどん付箋紙に書くよう声がけする。	

『親へのみちしるべ』【ステージ4】“親になる準備”のためのプログラム
 —未来の親となるあなたへ「こんにちは！赤ちゃん」

<p>展開2 30分 (20分)</p>	<p>グループ 〈とらえる〉</p>	<p>ワーク3 「ファシリテーターから、自分の子が生まれた時の話を聞きましょう。」 ①自分の子どもが生まれた時の話をする。</p> <p>ワーク4 「あなたが生まれた時のことを話し合ってみましょう。小さな頃の思い出で、好きだった遊びや心に残っているエピソードはありますか？」 ①ワーク4を問いかけ、グループ内で話し合うよう呼びかける。 ②グループ内でエピソードを聞いていく。</p> <p>ワーク5 「あなたが生まれた時、家族や周りの人はどんな気持ちになったと思いますか？イメージしながら話し合ってみましょう。」 ①ワーク5を問いかけ、考えやイメージしたこと等を付箋紙に書いてもらう。 ③コメントをグループシートのエリアに貼ってもらう。</p>	<p>①ファシリテーターの話を聞く。</p> <p>①小さな頃を思い出し、自分を大切にしてくれた人の思いをイメージする。 ②グループ内の仲間の話を聞く。</p> <p>①事前に家庭で聞いたことやファシリテーターから親としての思いを聞くことで、自分の親が自分をどんな思いで育ててくれたかを考える。</p>	<p>準備：ワークシート（各自）、グループシート、付箋紙</p> <p>①名前の由来や家族に聞いた話等があれば一緒に話し合うよう、声をかける。 ②話したくない場合は強要しない。</p> <p>※自分を支えてきてくれた人の愛情や生まれた時の親の安心・喜び・希望を感じることができるようにする。</p>
<p>(10分)</p>	<p>グループ 〈ふかめる〉</p>	<p>体験 「シミュレーター(リュックサック)をはずし、今度は赤ちゃん人形を抱こう。」</p> <p>ワーク6 「もしあなたが将来、子どもを育てるとしたらどんなことを願いますか？」 ①ワーク6を問いかける。 ②①を踏まえて、親の思いや将来の自分について話し合ってもらおう。</p> <p>ワーク7 「妊婦さんの大変さ、分かったかな？」 ①最後のワークを行う。</p>	<p>①自分の誕生を家族が待ち望んでいたことに気付く。 ②自分の成長が家族に希望を与えることに気付く。</p>	<p>準備：赤ちゃん人形</p> <p>※自分が大切な存在だということを感じることができるようにする。</p>
<p>ここでの〈わらい〉は、自分が将来親になることをイメージし、親が子を思う愛情に気付くことです。</p>				
<p>まとめ 30分</p>	<p>一斉 〈まとめ〉</p>	<p>◇講話 「赤ちゃんの特徴と保育について」</p> <p>①赤ちゃんは一人で生きられない。人間としての保育が必要。長い年月をかけての愛情が必要等の話を する。 ②シミュレーターをはずして元の身体に戻った時の感覚を意識してもらう。</p>	<p>①自分がかげがえのない命だと気付く。 ②子どもを愛しむ感覚を得る。</p>	<p>準備：ワークシート（赤ちゃんの特徴と保育に関する部分）</p> <p>※自分ここまで成長してきたことへの感謝を感じられるようにする。</p>
<p>ここでの〈わらい〉は、体験を通して、中学生になるまで支えてきてくれた家族や周囲の人に支えられてきたことに気付くとともに思いやりや感謝の気持ちを持つことです。</p>				
<p>事後</p>	<p>各自 〈振り返り〉</p>	<p>①アンケートをお願いする。グループシートを回収し、内容をまとめた結果を後日、生徒に配布する。</p>		<p>準備：アンケート用紙</p> <p>※このプログラムをきっかけに、家庭でも話題にしたり、振り返ってほしいことを告げて終了する。</p>